

(1) 8/21

9月24日の演奏会まで、4週間。

本番までの間に、プログラムのご紹介をしていこうと思います。

今回のプログラムは全10曲、そのうち、純粋にチェロアンサンブルのために作曲された曲は2曲だけで、その1つが、今回のオープニング曲の「レリジオーソ」です。

～「レリジオーソ」

Georg Eduard Goltermann (1824-1898:独)～

ゴルターマンはドイツ生まれのチェリスト、作曲家です。レリジオーソは「宗教の、敬虔な」という意味のイタリア語ですが、途中に「情熱をこめて」と楽譜に指示のある個所があり、静動緩急をお楽しみ頂ければと思います。4パートに

分かれて演奏します。

~~~~

(上記の曲目紹介の原稿は、メンバーが分担して書いています。)

この曲だけは、記念すべき第1回演奏会(2016年)の再演で、今回は4パートの奏者を入れ替えて演奏します。このようにパートを入れ替えて演奏することができるのは、単一楽器のチェロアンサンブルならではの楽しみと言えるでしょう。

そして、この曲は2020年のびわ湖と今年の京都でも演奏し、びわ湖での録音で大切な仲間を送りました。大切な曲です。

~~~~

写真は第1回の会場。Wikipediaからの引用です。(こんな外観だったんですね、キャンパスの中にあるのですが、最近建ったものなのでこのときにしか見ていなくて、すでに記憶があいまいです ^_^; 私だけかもしれません)

~~~~

(2) 9/1

9月24日の演奏会まで23日。プログラムご紹介の2番目は「首の差で」です。

～カルロス・ガルデル (Carlos Gardel) / 首の差で (Por Una Cabeza) ～

カルロス・ガルデル (1890～1935) は不世出のタンゴ歌手として知られるアルゼンチンの人気歌手・俳優です。

「首の差で」は、アルゼンチンでは昔からサッカー以外にも競馬にも人気があり、自分の気持ちが果たされない思いを「いつも首の差で負ける」と競馬の馬に例えたものです。

切ない思いのメロディと激しいタンゴのリズムをお楽しみください。

~~~~

(上記の曲目紹介の原稿は、メンバーが分担して書いています。)

アルゼンチンタンゴの名曲なので、どこかで耳にされることも多いかと思います。

私は、先日の日曜日、恐竜研究の番組で流れてきたのをキャッチして、おおっと思いました。なぜ、恐竜でこの曲なのか。2020年に新しく命名された新種の恐竜「マイプ」が紹介されていたからで、マイプの化石が見つかったのがアルゼンチンだったからです。

子供の頃、恐竜の図鑑を愛読していたのを思い出しました。おまけに、今、大阪市立自然史博物館では「恐竜博2023」が開催されていて、開催最終日は9月24日です。

浅からぬ? ご縁を感じます。

ということで、恐竜博2023もご紹介しておきますね。

<https://images.dnpartcom.jp/cube/dino2023/>

(3) 9/3

9月24日の演奏会まで21日。このペースでは、プログラムご紹介を終える前に当日になってしまいそうなので、巻きます・・・。

3番目は「イパネマの娘」

～イパネマの娘 (Garota de Ipanema)～

「イパネマの娘」はジョビン、モライスの黄金コンビによって1962年に発表された、ボサノバの代名詞とも言える歌です。イパネマとは、風光明媚なブラジルのリオデジャネイロにある海岸で、いつも地元の人や観光客で賑わっています。モライスによるオリジナルのポルトガル語歌詞は、海岸を歩き去る少女への届かぬ想いを物悲しく訴える歌詞です。爽やかな曲ですね。

~~~~

(上記の曲目紹介の原稿は、メンバーが分担して書いています。)

第1回のアンコール曲におしゃれなピアノパートを足して大幅にバージョンアップしました。

そう、この曲は団内編曲なのですが、前回も人気だった特別な奏法が楽譜に書かれています。●でも○でも無い、×××と書かれたパート。このパートは、弦を使いません。つまり、チェロを弦楽器ではなく×楽器として使うのです。

楽器奏者は、たいがい、普通ではない奏法が好きです。まあ、中には楽器が痛みそうな奏法もありますけれど、この奏法は無茶せず上手く鳴らせば、いい感じで楽器が鳴ります。

~~~~

上手く鳴らすのはけっこう難しいけれど、ほれぼれするぐらい上手い奏者もいまして、彼のパート譜には、たくさん×が書かれています。「あて書き」は団内編曲のだいご味です。

楽しく演奏して、お客様にも楽しく聴いていただければ、こんな嬉しいことはありません。



（4）9/3

今日は連投です。プログラム紹介4番目は、「ベートーヴェン」。

～ベートーヴェン～

皆様おなじみの3大ピアノソナタの二楽章だけを3曲、チェロアンサンブル用に編曲しました。

順番は聴いてのお楽しみ・・・

ピアノ独奏では味わえない、豊潤で重厚な響きにもかかわらず、

心に染みる様な8人の息の合った演奏をお楽しみ下さい。

~~~~

（上記のプログラム紹介は、メンバーが分担して書いています。）

ベートーヴェンのチェロのためのレパトリーといえば、チェロの新約聖書とも言われる5曲のチェロソナタという名曲がありますが、チェロアンサンブルに仕上げられそうな曲ではなく・・・、ピアノソナタの2楽章をチェロで演奏するというチャレンジングなプログラムが生まれました。

そうです。私たちはベートーヴェン、好きです。でもあまたあるピアノの名曲はピアノでしか弾けません。というわけで、編曲してしまった、それぞれにとてもチャーミングなピアノソナタの2楽章、私たちの憧れが、長い年月を超えて結実するさまを見届けていただければ幸いです。



#### （5）9/4

プログラム紹介5番目はポッパー。これで全10プログラムのうち半分です。

～ダーヴィト ポッパー（1843-1913） 2つのチェロの為の組曲 作品16より（3曲）～

1.アンダンテ グラツィオーソ 2.ガヴォット 3.スケルツォ

ユダヤ系チェコ人で高名なチェリストでもあったポッパーが2本のチェロのために作った曲です。曲自体は親しみやすい旋律や対旋律に和声が織りなされているのですが、それらを2本のチェロで演奏できる限界を求めて書かれたような難曲です。これを8人で掛ければアマチュアでも演奏できるのではと考え、重音や早いパッセージを分担するなどして私たちでも弾けるようにしてみました。プロはこれを2人で弾くのですね、信じられない。

~~~~

（上記のプログラム紹介原稿は、メンバーが分担して書いています。）

個人的に、この曲、大好きです。ポッパーの曲は、第2回にチェロ3本とピアノのためのレクイエムを演奏したのですが、静かに魂に沁みる美しい曲でした。今回の組曲は、少し趣きが違って、人生は美しくキラキラしていて楽しいのだとつぶやきたくなるような、そんな曲です。（個人の感想です。。。）

さて1曲め「レリジオーソ」の紹介のときに、うっかり、今回の10曲のうちチェロアンサンブルのために書かれた曲は2曲だけ（「レリジオーソ」と「クレンゲルの主題と変奏」）と言っていたのですが、このポッパーの組曲も、チェロアンサンブルのための曲でした。

ただ、これは2本のチェロのための曲を上記のとおり分解したものなのです。

Incredible!

写真はびわ湖での演奏の一コマをDUO風に切り抜いたものです（笑）、



（6）8/5

演奏会まで19日。プログラム紹介6番目は、「アリアとフーガ」です。

～「アリアとフーガ」 バッハ（Johann Sebastian Bach, 1685-1750：独）～

バッハの名曲2曲を続けてお送りします。1曲目は「G線上のアリア」としてあまりにも有名な曲です。G線はヴァイオリンの最低音の弦です。チェロの場合は最高音のA線を主に使用しますので残念ながらG線上のアリアにはなりません。2曲目のフーガは元々はオルガンの曲です。"fuga"は「逃走」という意味だそうで、各声部が同じ主題をもとに順に「追走」していきます。8人での息のそろった演奏をお届けできるよう、努力してまいりましたが、。

~~~~

（上記のプログラム紹介原稿は、メンバーが分担して書いています。）

Johann Sebastian Bach. チェロ弾きのはしくれとしては、バッハさんには絶対的な思い入れがあります。私が初めてYAMAHAのチェロ楽譜の棚で見つけてお小遣いで買ったのは、バッハの無伴奏チェロ組曲でした。

あ、そんな半世紀前のことを思い出している場合ではないですね。

バッハのレパトリーは、驚くほど多岐に渡っていて、今回演奏する2曲も、それぞれに個性があります。

そして、どちらもバッハで、300年経っても無二のバッハで、そんなバッハの管弦楽やオルガンのための楽曲をチェロアンサンブルで演奏できるのは、本当に素敵なことだと思います。

画像は いらすとや さんのイラストです。





## （7）9/7

演奏会まで17日。プログラム紹介も10曲のうち7番目になりました。

### ～ダニー・ボーイ～

『ダニーボーイ』は、アイルランドに伝わるメロディ『ロンドンデリーの歌』に、出征する息子（カレ）を想う切ない心境の歌詞をつけた「別れ」をイメージする曲です。昔、エルヴィス・プレスリーやアンディ・ウィリアムズが歌っていましたね。そう云えばコマーシャルにも使われていましたので皆さんもよくご存知かと想います。なんとも哀愁感漂うメロディですが、一方でどこか自然あふれる田舎の風景をも想起こさせ郷愁感も感じます。

今回は、シンプルなアレンジで「癒やし」を感じていただければ幸いです。

~~~~

（上記のプログラム紹介原稿は、メンバーが分担して書いています。）

私たちの音楽が届く世界が、平和で穏やかでありますように。



（8）9/8

あと16日で演奏会。そろそろ天気予報が気になってきました。

プログラム紹介8番目は、ピアノ入り編曲のウェーバーです。

～「舞踏への勧誘」 ウェーバー（Carl Maria von Weber, 1786-1826：独）～

ウェーバーが妻カロリーネに捧げたピアノ曲で、後のウィнна・ワルツのひな型ともされています。冒頭の美しいメロディで男性が女性を舞踏に誘います。「さあ、お手をどうぞ」「あら、はずかしい」そして……。ダンス！ダンス！ワルツ！ワルツ！「目が回りそう（でも楽しいわ!）」時は瞬く間に過ぎ、二人はおじぎをして別れます。ベルリオーズ編の管弦楽版も有名ですが、本日はKusakabenbenによる和風の隠し味も効いた編曲をお楽しみください。

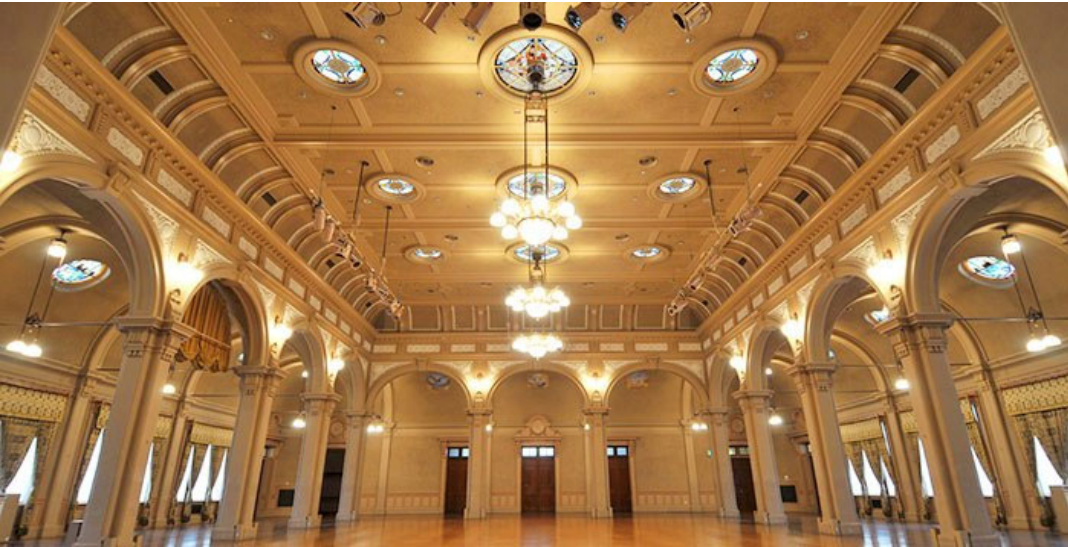
~~~~

（上記のプログラム紹介原稿は、メンバーが分担して書いています。）

ピアノのキラキラした感じが舞踏会場のシャンデリアを彷彿とさせるような・・今回のプログラムにこの曲が入ったのは、会場が決まるずっと前（当初、豊中でコンサートを予定していた頃）なのですけれど、今にして思えば今回の会場にぴったりではないですか。

（大正時代に建築されたこの会場。「和風の隠し味」もきっと（たぶん）似合います。）

写真は、大阪市中央公会堂のサイトから。今回の会場。ああ、それにしても広い。。。お客様に踊っていただけるぐらい、たっぷりのフロアです。お一人でも多くの皆様のご来場を切にお待ちしております。よろしく願いいたします。



## （9）9/9

曲目紹介も9曲目。演奏会まで2週間+1日となりました。ラストスパートです。

### ～Sechziger, danach～

第1回目のコンサートで披露しましたSechziger(60代)の続編で、その60才を迎えた人々のその後（danach）についてをテーマにしました。前回の曲終わり与此の曲の曲はじめは同じで、2曲を連続して弾けるようにしてあります。前回の曲では60代を迎えて浮かれた気分が、今回は少し深刻な気分が変わっています。聞いたことのあるパッセージが含まれていますが、それはちょっと独善的なことを意味しますが、しかし最後は仲間と楽しい大団円となります。

~~~~

（上記の曲目紹介原稿は、作曲者が書いています。）

団内編曲の多くを手掛けているkusakabenben氏は、昨年も某作曲賞を受賞し、その楽曲は某有名音楽誌上で発表されました。そういえば学生時代、当時公開されたばかりで楽譜の無かったスターウォーズのメインテーマをオケ用に編曲してくれて、後輩の私はかっこ良いなあと思いつつながら弾いた記憶があります。（本人は記憶にないそうです。）

さて、今回の曲は、曲目紹介のとおりですが、「しかし最後は仲間と楽しい大団円」・・・ああ、曲の最後はそういうことだったんだ・・・。何もかもそうなると良いですね。

写真はスペインの風車のフリー画像です。（「聞いたことのあるパッセージ」のヒント？的な？）



（10）クレンゲル 主題と変奏

演奏会まで、きっかり2週間。プログラム紹介も最終回です。

～クレンゲル 主題と変奏 (Julius Klengel, 1859-1933：独)～

この曲は、抒情的なアンダンテの主題の後、チェロアンサ

ンプルならではのテクニックと表現が生きる6つの変奏が続き、最後に静かに主題に戻ります。我々にはかなりの難曲。楽しんでいただける演奏になることを祈って・・・。

~~~~

（上記のプログラム紹介原稿は、メンバーが分担して書いています。）

当日のプログラムでもフィナーレを飾るのが、この曲です。お聴きいただいた感じをはるかに超える難しさなのですが、演奏者にとってもアンサンブルの醍醐味を存分に味わえる名曲であり、チェロという楽器の良さがクレンゲルらしくたっぷりです。リボンをほどいたらチェロアンサンブルのプレゼントが次から次へと飛び出すような、私はそんなイメージを持っています。

演奏しないマネージャ（わたくし）は、ドキドキもありますが、やはりワクワクの方が大きいです。当日は、お客様と一緒に楽しみたいと思います。

